

ふるさとテレワークセミナー2018

平成29年度補助事業 取組紹介資料

平成30年3月22日

青森型リモート／ダブルワーク推進事業『AOMORI ASTEROIDS PROJECT -青森小惑星群計画-』

特定非営利活動法人あおもりIT活用サポートセンター（青森県青森市、青森県弘前市）

コンソーシアム名	青森小惑星群共同体 -AOMORI ASTEROIDS PROJECT consortium-		
コンソーシアム参加機関名 (下線は代表機関)	特定非営利活動法人あおもりIT活用サポートセンター、青森県、弘前市、弘前大学、青森明の星短期大学、株式会社コンシス、株式会社技術評論社、株式会社リ・ポジション、株式会社デザインアクト、株式会社アンティ・ファクトリー、株式会社アンティ・システム、株式会社リチャージ、株式会社タービン・インタラクティブ、株式会社ソニックガーデン、一般社団法人データクレイドル		
地方移動者数	個人：40人	地元ワーカー数	個人：50人
事業概要	<p>「青森小惑星群計画」は、地元ワーカーや移住・Uターン人材が、地域コミュニティの中で都市部の仕事を地方で請け負う事業である。青森県は他県に比べて、交通・気候などの面で企業誘致には不利なため、個人で働ける仕事を増やす。現在官民で取り組んでいる、仕事を受託するプラットフォーム（ギルド）により、都市部からの業務が増加している。ギルドの業務内容は、電子書籍化・ウェブ制作・ライティング・ゲームイラストなど多岐にわたる。拠点整備により、受託業務を中心としたコミュニティが形成、同時に自治体のUIターン施策と連携し、都市部から地方への移住を加速させる。拠点整備した「青森市」「弘前市」は豪雪地帯で通勤困難者も多いため、テレワークによる業務効率化により青森県内のテレワーク啓蒙にも寄与する。</p>		

青森県の現状

青森型リモート／ダブルワーク推進事業

青森市拠点 Gravity CO-WORK

青森県の未来

青森県の課題

- ❗ 都市部への人口流出
- ❗ 一次産業従事者の高齢化

青森県の強み

- ❗ 女性が働きやすい環境
- ❗ 兼業への抵抗感が薄い

本事業の取組

- ❶ 「仕事」を誘致するプラットフォームづくり
- ❷ 青森で働き続けられるワーカーの育成
- ❸ 自立・継続性を重視した拠点整備

青森は人口減少問題が顕著で、最大の課題は「仕事・雇用」である。すでに実施している都市の仕事を地方で受託する（『ギルド』『クリエイターズバンク』）を増幅させるために拠点整備を実施する。拠点はコミュニティの中心となり、都市と地方の交流や、地域内の業務の効率化を実現する。結果、UIターン（特にUターン）人材が増加し、受注規模も拡大していく。

本事業の成果

拠点利用者数（2拠点合計）

移住 (UIターン)	11名
長期滞在	29名
個人利用 (延べ人数)	680名

青森市拠点
Gravity CO-WORK

- 青森県青森市古川1丁目8-2 倉内ビル3階
- 坪数 22.58坪
- 竣工年月日 1986年(築30年)
- 最寄駅 JR 青森駅



弘前市拠点
ワークスペース SHIFT

- 青森県弘前市白石町38-1 コンシス1F
- 坪数 約33.0坪
- 竣工年月日 1970年(築46年)
- 最寄駅 JR 弘前駅

青森県弘前市白石町38-1 コンシス1F

- 坪数 約33.0坪
- 竣工年月日 1970年(築46年)
- 最寄駅 JR 弘前駅



事業完了後

- ❗ IT人材のスムーズな受け入れ態勢の構築
- ❗ 青森県内の他地域への拠点の整備
- ❗ 県事業と連携した受注拡大の事業展開(平成30年度～)
- ❗ 他県の小惑星との連携体による受注スキーム形成

リモートワーク・ダブルワークが育つ土壌はある



育成するための組織と拠点を整備することが必要

青森型リモート／ダブルワーク推進事業『AOMORI ASTEROIDS PROJECT -青森小惑星群計画-』

特定非営利活動法人あおもりIT活用サポートセンター（青森県青森市、青森県弘前市）

■整備した拠点の概要

Gravity CO-WORK（グラビティコワーク）

青森県青森市古川1丁目8-2 倉内ビル3階

JR青森駅から徒歩5分。

利用対象者は、移住者・長期派遣者・地元ワーカーなど。

約20名が収容可能。

パソコンやネット回線を利用した一般的な業務が可能。



ワークスペースSHIFT（シフト）

青森県弘前市百石町38-1 株式会社コンシス1階

JR弘前駅から徒歩15分。

利用対象者は、移住者・長期派遣者・地元ワーカーなど。

約30名が収容可能。

パソコンやネット回線を利用した一般的な業務が可能。



■整備完了後の取組内容の概要

青森市「Gravity CO-WORK」および弘前市「ワークスペースSHIFT」は、長期継続的な自立運営を目指し、コンソーシアムで連携して運営をしていく。テレワーク拠点でのソフト事業支援として青森県庁が予算化を進めているほか、テレワーク拠点の利用者からの月額利用料を徴収する。それに加え、都市部からの業務を受注するプラットフォームである「ギルド」「弘前クリエイターズバンク」での収益などを資金とする。さらに、定期的なイベント開催をすることで、地元ワーカーへの拠点認知や広報を進める。長期計画としては、青森県内の他エリアでも同様のテレワーク拠点を形成し、県内全域のネットワーク化を図る。平成30年度は、移住者15名・長期滞在36名・個人利用は1680名を、両拠点の合計目標としている。

(参考①) 整備した拠点について

■青森県青森市「Gravity CO-WORK」

JR青森駅から徒歩3分程度の中心地にあり、「のっけ丼」で有名な青森魚菜センターに隣接。商店街「ニコニコ通り」に面しており、人通りも多い。徒歩1分に位置する「フェスティバルシティ アウガ」には、青森市役所が平成30年1月に移転されたばかり。青森空港まで車で30分、新幹線が通る新青森駅を利用すれば東京まで3時間30分と、都市部へのアクセスも良い。

Gravity
CO-WORK
グラビティ・コ・ワーク

AOMORI

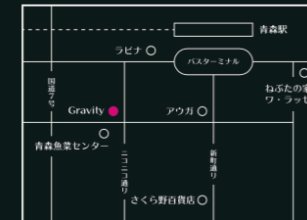
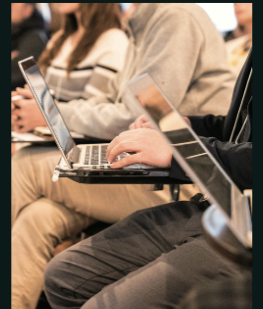
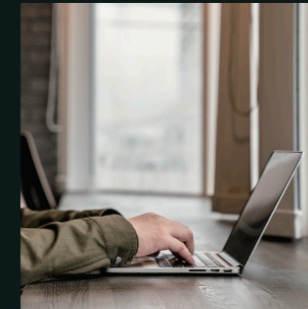


The Center of Gravity

グラビティコワーク [Gravity CO-WORK] は、地元の IT/ クリエイティブワーカーや移住者の重力場。首都圏ともアクセスの良い青森駅前に位置し、シゴトやコミュニティを引き寄せます。コワーキングスペースやイベントスペースとしてご利用いただけます。

- 青森駅から徒歩5分
- 青森県庁へも徒歩5分
- 青森市役所駅前庁舎 徒歩1分
- 30名程度のイベント対応
- Wi-Fi・電源完備
- プロジェクター (5500lm)*
- 複合機 (A3)*
- 大型モニター (55inch)
- スマートロック・防犯カメラ
- ロッカー

*有料貸出



030-0862
青森県青森市古川1丁目8-2
倉内ビル 3F
017-718-0207
info@gravity-co-work.jp
gravity-co-work.jp

NPO法人 Aoit Gravity
あおもりIT活用サポートセンター

- ✓ 電源
- ✓ Wi-Fi
- ✓ コンセント付き作業机
- ✓ AppleTV
- ✓ チェア13脚
- ✓ イベント用スタッキングチェア17脚
- ✓ 天吊りプロジェクター5500lm

- ✓ 壁掛け大型モニター 55インチ
- ✓ コイン式プリンター複合機
- ✓ スキャンスナップ
- ✓ 鍵付きロッカー
- ✓ ホワイトボード
- ✓ スマートロック
- ✓ 防犯カメラ



<http://gravity-co-work.jp/>

(参考①) 整備した拠点について

■青森県弘前市「ワークスペースSHIFT」

『さくらまつり』で有名な弘前城まで徒歩5分、JR弘前駅まで徒歩15分に位置し、コンソーシアムを構成する株式会社コンシスが保有・管理する拠点。同社の1階部分を『ワークスペースSHIFT』として整備した。「青森ITワーク調査モニターツアー事業（青森県庁）」を同社が受託・運営し、都市部からの移住希望者に対して「お試し移住者」を例年10名以上を受け入れている。近隣の地元ワーカーが集い、新しいプロジェクトの立ち上げや、各種イベントなどが開催されている。

WORKSPACE
SHIFT

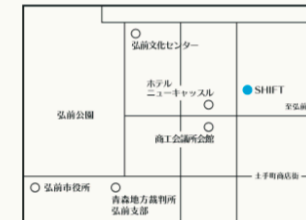
HIROSAKI



Shift Up!

弘前市のワークスペース・シフト [SHIFT] は、県内外の IT/ クリエイティブワーカーが集い、自分を・地域をシフトする場所。ノマドワーカーの拠点として、ミーティングの場として、イベント・セミナー会場として、ハッカソンの場として、首都圏と青森県内をつなぐ場所として開設しました。

- 弘前公園徒歩5分
 - 弘前市役所徒歩圏内
 - 50名程度のイベント対応
 - Wi-Fi・電源完備
 - プロジェクター (5500lm)[※]
 - 複合機 (A3)[※]
 - 大型モニター (55inch)
 - スマートロック・防犯カメラ
 - ロッカー
- ※有料貸出



📍 036-8035
青森県弘前市百石町 38-1
コンシス 1F
☎ 0172-34-9710
✉ info@consis.jp
🌐 <http://www.shift.aomori.jp>



- ✓ 電源
- ✓ Wi-Fi
- ✓ コンセント付き作業机
- ✓ AppleTV
- ✓ チェア12脚
- ✓ イベント用チェア
- ✓ 天吊りプロジェクター5500lm
- ✓ 壁掛け大型モニター 55インチ
- ✓ コイン式プリンター複合機
- ✓ スキャンスナップ
- ✓ 鍵付きロッカー
- ✓ ホワイトボード
- ✓ スマートロック
- ✓ 防犯カメラ



<http://www.shift.aomori.jp/>

(参考②) 整備完了後の取組内容について

■平成29年度の利用者実績

✓ 移住 (UIJターン)	11名
✓ 長期滞在	29名
✓ 個人利用 (延べ人数)	680名

■次年度以降の利用者目標

	平成30年度	平成31年度	平成32年度
移住 (UIJターン)	15名	18名	18名
長期滞在	36名	40名	40名
個人利用 (延べ人数)	1680名	2420名	2420名

(参考②) 整備完了後の取組内容について

	内 容	関連企業・団体	実施時期
■都市部からの仕事の移動			
ギルド	都市部の仕事を受注し、地元ワーカーに再発注していくプラットフォームである「ギルド」。コンソーシアム加入団体である株式会社技術評論社からは、電子書籍制作を継続的に発注いただいている。	株式会社技術評論社、あおもりIT活用サポートセンター	通年
弘前クリエイターズバンク	都市部のゲームグラフィック制作案件を、弘前市の地元ワーカーに発注するプラットフォームである「弘前クリエイターズバンク」。一流デザイナーから技術を学びながら仕事を請けることができる。	株式会社デザインアクト、株式会社コンシス	通年
■テレワーク			
ITテレワーカー流入推進	コンソーシアム加入団体である青森県庁が、都心のITテレワーカーと地元ワーカーとの交流促進、情報発信、テレワーク拠点のPR、UIJターンエバンジェリスト、二拠点移住実証ツアー、青森県へのUIJターン希望の潜在者調査など、事業化を進めており、予算要求し、議会で議決見込み。	青森県新産業創造課、あおもりIT活用サポートセンター	通年
青森ITワーク調査モニターツアー	都市部のITワーカーが、青森県で「移住移住」し、普段通りの仕事ができるか検証する事業。例年続いており、今年も10名以上のITワーカーが青森県に長期滞在を予定。地元ワーカーとの交流にも重きを置いている。	株式会社コンシス、青森県新産業創造課	9月前後

(参考②) 整備完了後の取組内容について

	内 容	関連企業・団体	実施時期
■セミナー			
地元ワーカースキルアップセミナー	レンタルサーバーCPIを提供するKDDIウェブコミュニケーションズ（東京）が、「Web活用に効果的なデザインツールとフォントを学ぼう」と題したセミナーイベントを、青森市Gravity CO-WORKで開催予定。個人事業主などを中心としたIT系の地元ワーカーに向けたものである。	株式会社KDDIウェブコミュニケーションズ、あおもりIT活用サポートセンター	4月28日(土)
高技能テレワーカー養成セミナー	シックス・アパート株式会社は、青森県商工労働部新産業創造課と協同で、高技能テレワーカーを養成し、青森へのUIJターンを支援するキャンペーン「SAWS@青森」を開催。UIJターンの実現と高技能テレワーカーの養成のために、テレワークならびにウェブ制作やマーケティングのノウハウを提供するセミナーを開催する。 ※「高技能テレワーカー」とは、仕事において高い技能を持ち、場所を問わず自律して職務を進め、成果を出せる人のこと。	シックスアパート株式会社、青森県新産業創造課、あおもりIT活用サポートセンター	5月中旬
ハッカソン	青森市Gravity CO-WORKで、ハッカソンを開催する。コンソーシアム団体である株式会社ソニックガーデンの社員、青森県内のエンジニア、学生エンジニアを集め、チーム対抗で一泊二日の時間を掛けて、それぞれウェブサービスなどのプロダクトを制作する。 ※ソニックガーデンは、社員約30名全員がリモートワークで、一般財団法人日本次世代企業普及機構（通称 ホワイト企業普及機構）が主催する、第3回「ホワイト企業アワード」において「イクボス部門賞」を受賞。また平成29年2月には、「働きがいのある会社」ランキングで「ベストカンパニー賞」を受賞したばかり。同社の青森現地エンジニア採用の人材探しも兼ねる意図もあり、実際に人材採用に至った場合、都市部の企業（ソニックガーデン）に正社員雇用されながら青森でテレワークできることになる。	株式会社ソニックガーデン、あおもりIT活用サポートセンター、県内IT起業、県内大学	6月3日(日)～ 6月4日(月)
クリエイティブ人財との連携による創造的商店街構築事業	商店街の活性化及び若者のUIJターンや定住を促進するため、デザイナー等のクリエイティブな発想を持った人材を活用した商店街活性化のイベントを実施 ※予算の承認および、当コンソーシアム関連法人による採択が条件	青森県商工労働部、株式会社コンシス、あおもりIT活用サポートセンター	6月中

(参考②) 整備完了後の取組内容について

■個人テレワーカー（小惑星）たちの利用例

✓30代前半・男性・青森市にUターン・ITエンジニア

現在東京に住んでいるが4月から青森市にUターンが決定していて、そのタイミングで学生時代の友人とともにIT系の起業を計画している。Gravity CO-WORKの利用登録およびに法人登記も同拠点で予定。

✓20代後半・女性・青森市の地元ワーカー・ライター/エディター

3月末で地元企業を退職して、都市部の案件を中心にライター/エディターとして独立予定。在宅ワークを予定していたが、コミュニティワークへの興味と、自宅には無いオフィス用設備備品を利用したく、Gravity CO-WORKに登録を検討中。

✓30代前半・男性・弘前市に移住・プランナー

自宅兼事務所となっているが狭く、コミュニティにも広がりがない。顧客やプロジェクトメンバーとの打ち合わせスペースとしても使えるので、ワークスペースSHIFTを利用。現在は個人事業主だが4月から法人化する。

✓40代前半・女性・弘前市に移住・事務代行/ブロガー

自宅兼事務所だが、自宅で作業すると家事・育児に気をとられて集中できないため、ワークスペースSHIFTを利用したい。電子書籍制作業務などもやっているが、実機確認用のタブレット端末をワークスペースSHIFTのロッカーに置いて作業を進めたい。

✓20代前半・男性・青森市の地元ワーカー・学生起業家

事務所がないので普段から駅前のカフェで仕事をしているが、毎日のようにいると都合の悪いこともあり、打ち合わせスペースに困ることが多かった。法人登記も含め、Gravity CO-WORKを利用予定。



(参考②) 整備完了後の取組内容について

■開催したイベント



1月20日(土)・青森市Gravity CO-WORK・セミナーイベント
『CPI20周年サンクスキャラバン
「Webのこれから」～Web制作に必要な技術と考え方～』



2月10日(土)・青森市Gravity CO-WORK・セミナーイベント
『青森流テレワーク -地方での稼ぎ方&暮らし方-』



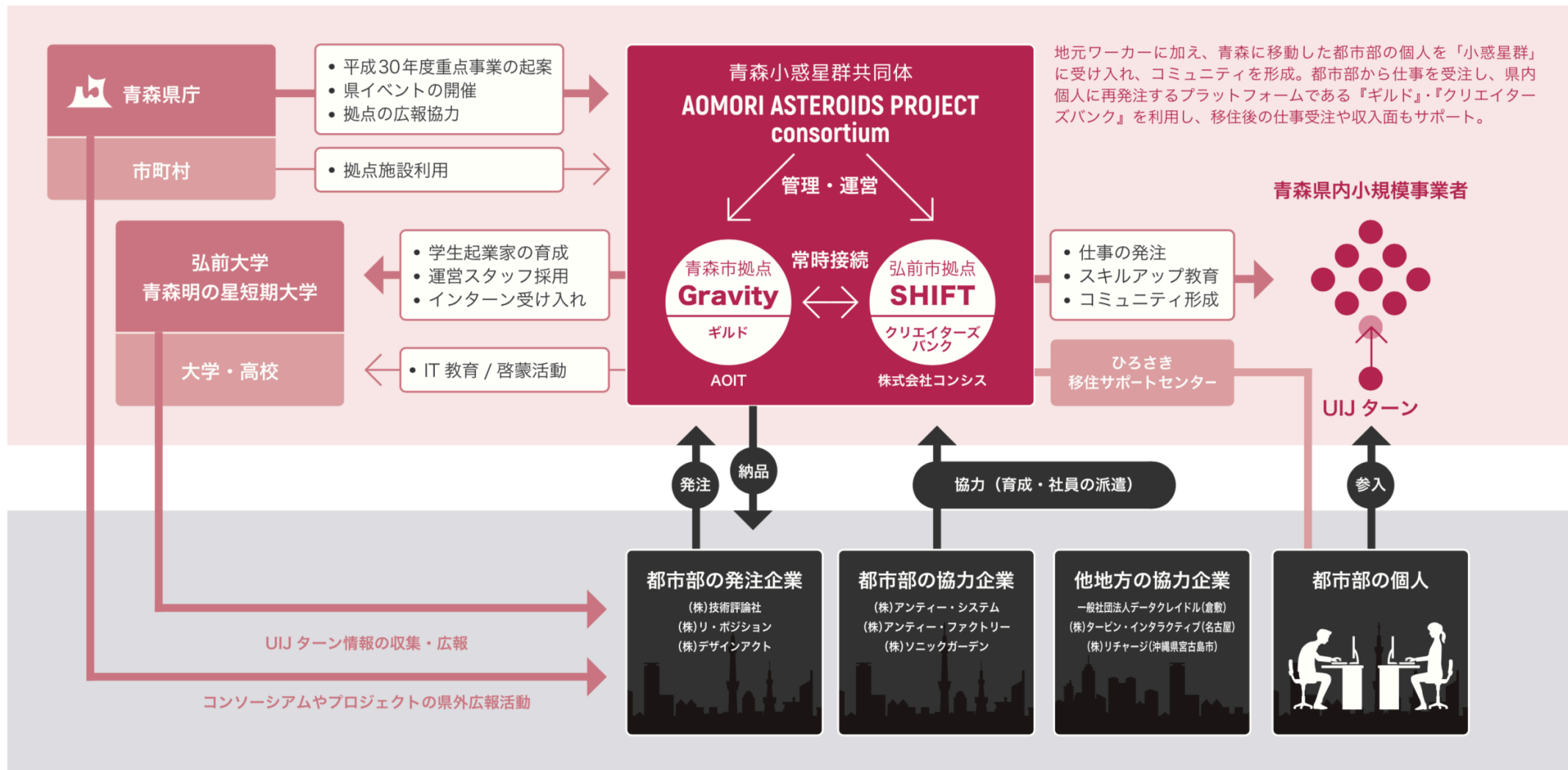
2月3日(土)・青森市Gravity CO-WORK・セミナーイベント
『東京じゃ話せない『禁断のウェブライティング』-その筋のプロが勢揃い-』



2月9日(金)・弘前市ワークスペースSHIFT
『青森小惑星群計画』テレワーク拠点オープニングイベント

(参考②) 整備完了後の取組内容について

■今後のコンソーシアムと協力企業の活動



青森県庁は平成 30～31 年度において、青森市『Gravity CO-WORK』弘前市『ワークスペース SHIFT』の自立運営を支援するための、2 年重点事業を予算化した。青森県が主催もしくは参加する都市部イベントで、積極的に当事業の取組をPRし、『ギルド』・『クリエイターズバンク』への発注候補企業や、青森へ移住希望への個人に対してマーケティング。また、東京有楽町にある「ひろさき移住サポートセンター」と連携し、移住やUターン希望者の紹介を受け入れる。

すでに『ギルド』・『クリエイターズバンク』へ仕事を発注している都市部企業は複数存在。営業活動と紹介によって受注案件数・発注企業数を増やす。

本事業に関する問合せ先

特定非営利活動法人あおもりIT活用サポートセンター

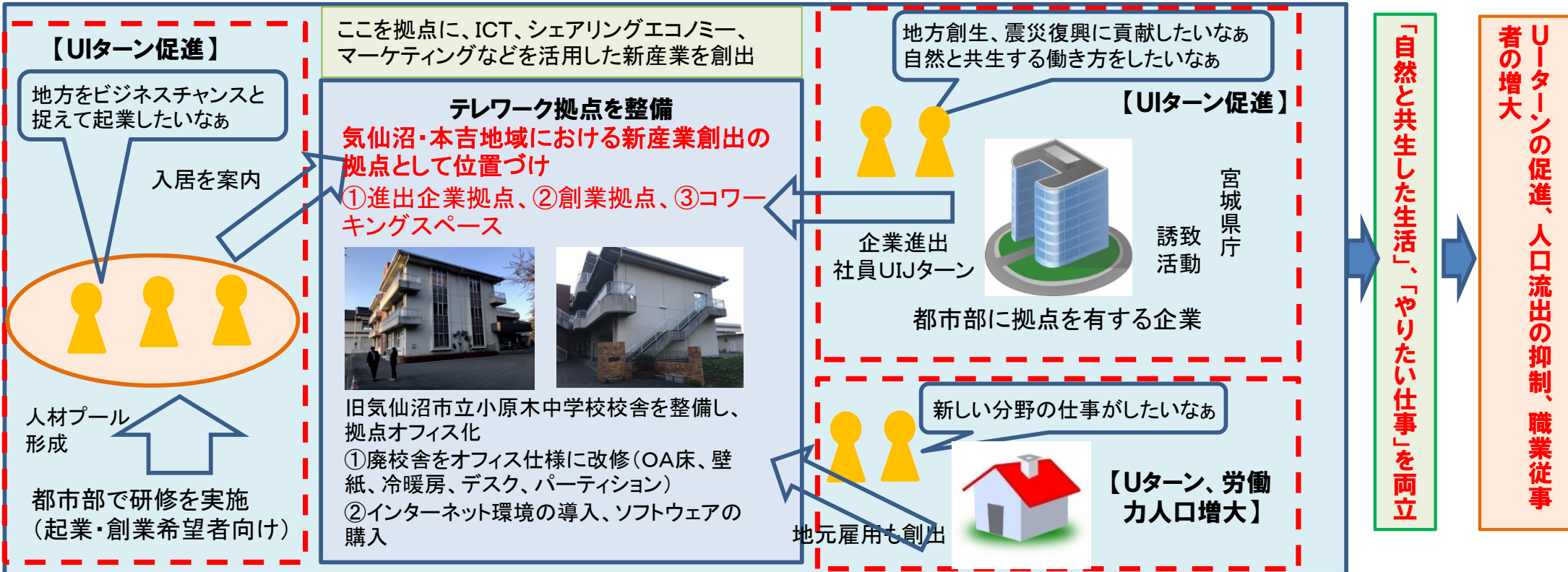
担当者名 事務局長 本田 政邦

電話番号 070-6951-4624

電子メール info@aoit.jp

平成29年度予算ふるさとテレワーク推進事業
復興ICT拠点整備先導プロジェクト
 宮城県気仙沼市（宮城県気仙沼市）

コンソーシアム名	気仙沼市ICT拠点整備コンソーシアム			
コンソーシアム参加機関名 (下線は代表機関)	<u>気仙沼市</u> 、 <u>気仙沼商工会議所</u> 、 <u>本吉唐桑商工会</u> 、 <u>気仙沼信用金庫</u> 、株式会社LASSIC、株式会社R&P CONSULTING、タイムカプセル株式会社			
地方移動者数	従業員：6人	個人：1人	地元ワーカー数	従業員：3人 個人：未定
事業概要	市内学校跡地施設である旧気仙沼市立小原木中学校校舎を改装整備し、都市部からの進出企業、起業創業者等の事業拠点とする。これによって都市部からの企業進出やUターン者・地元在住者による起業・創業を円滑化することで、職種の幅を広げ、人口減少への対応、新産業の創出を行う。また、本事業で整備する拠点を、当市における新産業創出の拠点として位置づけ、ICT産業やシェアリングエコノミーなどの新たなビジネスが将来にわたって生まれ続けるための原動力とする。			



平成29年度予算ふるさとテレワーク推進事業
復興ICT拠点整備先導プロジェクト
宮城県気仙沼市（宮城県気仙沼市）

■整備した拠点の概要

名称：小原木ICT拠点（仮）

住所：宮城県気仙沼市唐桑町館68

アクセス：JR気仙沼駅から車で20分。宮城県の北東端に位置した風光明媚なロケーション。

利用対象：ICT企業用サテライトオフィス5室（10名収容）、IT人材育成用コワーキングスペース1室（24名収容）

業務内容：市内学校跡地を改装整備し、都市部からのICT技術を利用する企業、起業創業者等の事業拠点とする。



■整備完了後の取組内容の概要

拠点の運営計画

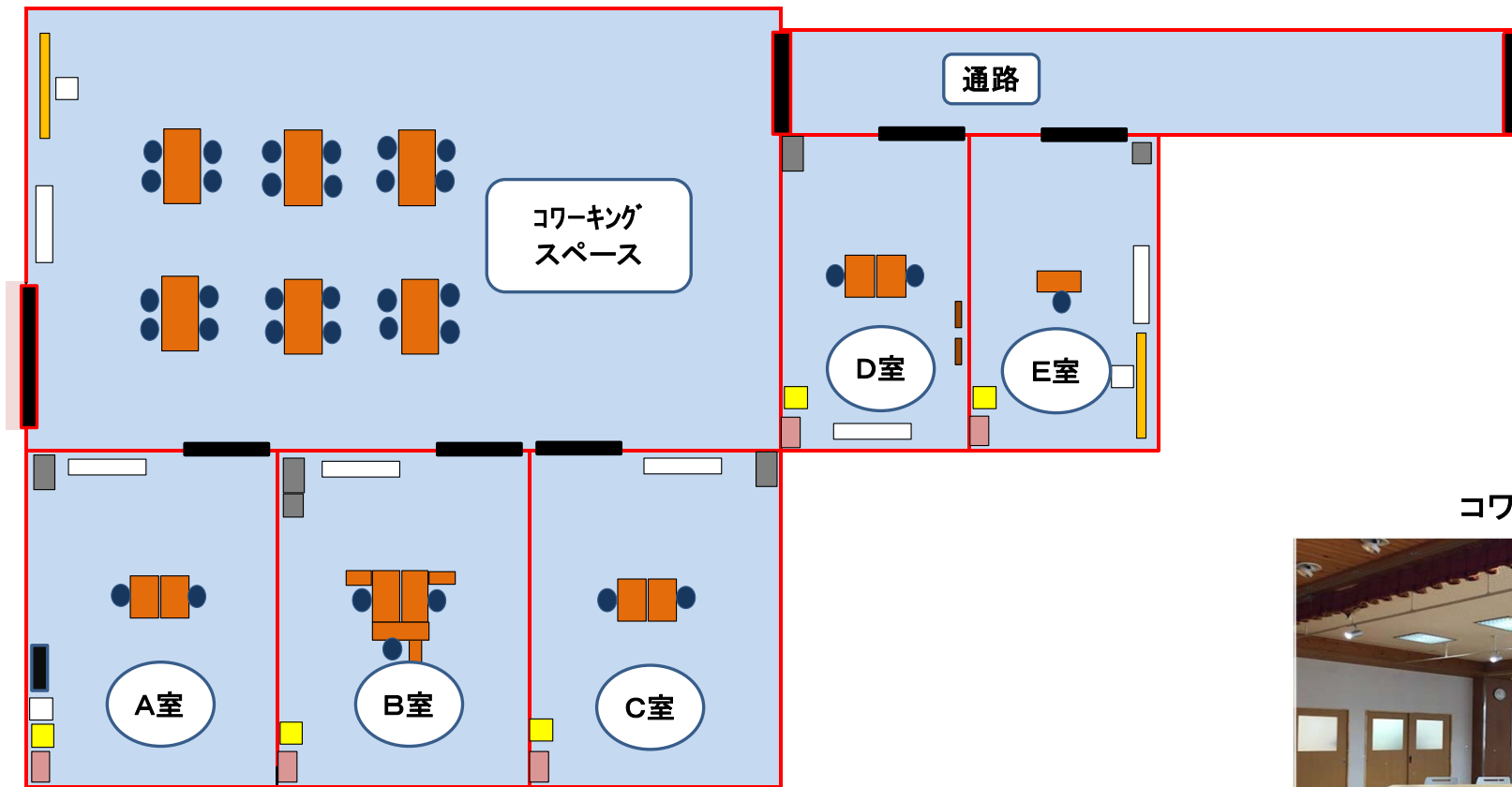
本拠点では補助事業終了後も施設の運営を継続し、新たな入居企業の募集を行い、利用者の増加を図る。その際、宮城県とも連携し、必要に応じて気仙沼市担当者も都市部企業に対して折衝を行う。

また、シェアリングエコノミーをはじめとしたビジネスチャンスの創出やICT教育の成果として事業を拡大・開始する者、さらに入居企業から独立を目指す者、当市創業補助金を活用して市外からUIターンして創業する者に対しても、入居を促す予定としている。

地方移住者数や地元ワーカー数の年度ごとの目標人数等

区分	H30年度	H31年度以降
市外からの移住者	2人	0人
長期出張者	1人	1人
地元ワーカー	3人	3人

(参考①) 整備した拠点について



入り口



コワーキングスペース



企業の部屋



企業の部屋



空間共有システム(テレビ会議システム)を用い、地方のクライアントや支店との戦略会議を予定

各企業が独自のインターネット回線を引き込み、ICT事業を営む

これまで、気仙沼市にはなかったICT企業を誘致することで、子どもからシニア世代にIT人材育成講座を開催する。
入居するITを活用したマーケティング企業と市内の事業者とのマッチング会議を開催し、既存事業のさらなる発展を目指すクリエイティブスペースとして活用する。

本事業に関する問合せ先

宮城県気仙沼市

部署名	産業再生戦略課
担当者名	平田係長、岡崎、山内
電話番号	0226-22-6600（内線348）
電子メール	senryaku@kesenuma.miyagi.jp

旧石森小学校拠点整備事業「田村市テレワークタウン化構想」

株式会社ジェイアール東日本企画（福島県田村市）

コンソーシアム名	田村市ふるさとテレワーク推進コンソーシアム				
コンソーシアム参加機関名 (下線は代表機関)	株式会社ジェイアール東日本企画、田村市、株式会社ワールドインテック福島、 <u>アカデミア・コンソーシアムふくしま</u>				
地方移動者数	従業員：6人	個人：5人	地元ワーカー数	従業員：10人	個人：5人
事業概要	田村市では市保有の遊休公共施設をテレワークセンターとして利活用し、市内へ多展開する「田村市テレワークタウン化構想」を目指す。本年度は、旧石森小学校の拠点整備を行い、企業のサテライトオフィスを誘致し、都市部から人と仕事を移動させる。テレワークによる雇用の創出、柔軟な働き方を実現することで地方移動者、地元ワーカーそれぞれのワークライフバランスの向上を図り、ひいては働き方改革、一億総活躍社会の礎を築く。同時に福島の復興拠点として、中通りから浜通りへと続く人の流れを生み出す。				

旧石森小学校サテライトオフィス/テレワークセンター



サテライトオフィスA



サテライトオフィスB



テレワークセンターC



テレワークセンターD

田村市の総合戦略における重点項目

産業振興

若い世代を中心として、安心して働ける産業振興と雇用創出

定住・雇用

定住雇用、農山村をはじめとした地域における日常生活機能維持およびネットワーク構築

子育て・少子化

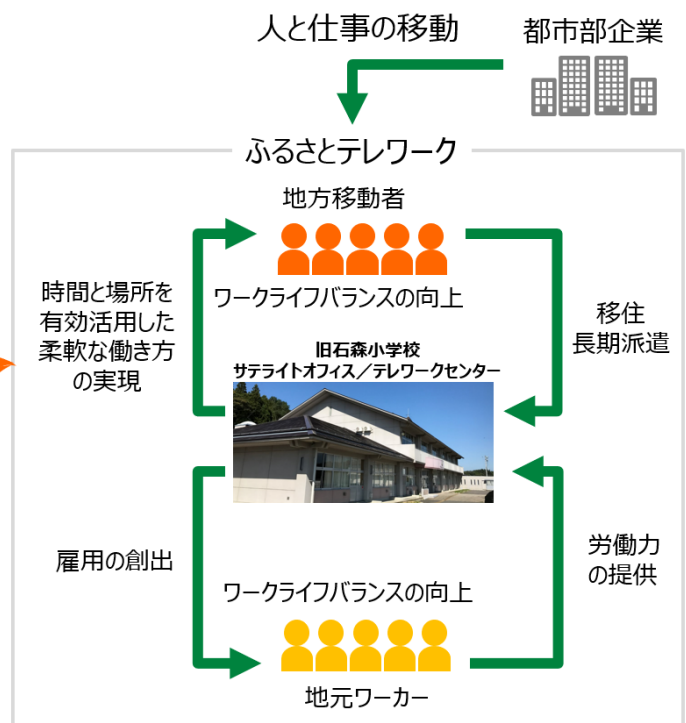
若い世代が希望に応じた結婚、出産、子育て、働き方ができる環境構築

市内他敷設へ展開

田村市を「テレワークタウン」へ



地方創生・一億総活躍社会の実現



<都市部から移動する人と仕事>

株式会社ジェイアール東日本企画

- UJIターンを含む、都市部からの移住就職推進、人材マッチング事業
- 被災地事業者販路、六次化等推進支援事業
- 被災地域のコミュニティ再生・再構築支援事業

その他進出企業

- 株式会社Shift
- 株式会社ワールドインテック
- NPO法人元気になろう福島
- 株式会社ポップジャパン
- 株式会社ナナイロ

旧石森小学校拠点整備事業「田村市テレワークタウン化構想」

株式会社ジェイアール東日本企画（福島県田村市）

■整備した拠点の概要

terrace

i s h i m o r i

テラス石森

名称：旧石森小学校拠点整備事業「田村市テレワークタウン化構想」
住所：〒963-4313 福島県田村市船引町石森館108 [旧石森小学校]
アクセス：車・・・郡山東IC-（6分）-船引・三春IC（8分）-現地
電車・・・郡山駅-（磐越東線で26分）-船引駅-（車で5分）-現地
空港・・・福島空港・・・車で50分
利用対象：都市部企業、地方移動者、地元ワーカー
収容人数：サテライトオフィスA（自社専用型オフィススペース）：56㎡ 5名
サテライトオフィスB（自社専用型オフィススペース）：56㎡ 4名
テレワークセンターC（共同利用型オフィススペース）：81.94㎡ 5名
テレワークセンターD（共同利用型オフィススペース）：98.14㎡ 10名
整備拠点で可能な業務：パソコン業務および遠隔接続テレビ会議

■整備完了後の取組内容の概要

• 拠点の運営計画

2018年3月～プレオープン。2018年3月21日に開所式を行い、進出企業の入居を開始。以降、都市部企業のサテライトオフィスおよび都市部で活躍するフリーランス、地元テレワーカー等による利用を進め、4月からの本格稼働を予定。

• 地方移動者数や数の年度ごとの目標人数

移住者数：平成30年度／ 9人 平成31年度以降／ 9人

• 長期派遣者数：平成30年度／ 10人 平成31年度以降／ 14人

• 進出企業による地元雇用者数：平成30年度／ 20人 平成31年度以降／ 30人

(参考①) 整備した拠点について

■ 整備拠点



【拠点情報HP】 <http://switch-terrace.com/>
拠点の情報を得られると同時に、問い合わせ、事前予約が可能



■ サテライトオフィスA : 56㎡ / B : 56㎡ >

- オフィス什器 (デスク、チェア、ホワイトボード、鍵付きファイルキャビネット、プリンター)
- 遠隔接続テレビ会議機材 (ノートPC、WEBカメラ、マイク&スピーカー)
- オフィス住環境 (エアコン、カーテン、ロッカー、コート、ハンガー、パーテーション)
- インターネット通信環境 (高速回線、無線LAN環境)
- オンライン予約管理システム
- スマートロック入退室管理
- 防犯カメラ24時間セキュリティ

■ テレワークセンターC : 81.94㎡ / D : 98.14㎡ >

- オフィス什器 (デスク、チェア、ホワイトボード、プリンター)
- オフィス住環境 (エアコン、カーテン、ロッカー、コート、ハンガー、パーテーション)
- インターネット通信環境 (高速回線、無線LAN環境)
- オンライン予約管理システム
- スマートロック入退室管理
- 防犯カメラ24時間セキュリティ

(参考②) 整備完了後の取組内容について

■目標の達成状況（平成29年度）

- ・移住者数：3名（ジェイアール東日本企画・Shift）
- ・長期派遣者数：5名（ジェイアール東日本企画・Shift）
- ・進出機関による地元雇用者数：4名（株式会社ワールドインテック・NPO法人元気になろう福島・株式会社ホップジャパン・株式会社ナナイロ）

■目標の達成状況（平成30年度）

- ・移住者数：平成30年度／5名（ジェイアール東日本企画・都市部フリーランス等）
- ・長期派遣者数：平成30年度／2名（ジェイアール東日本企画）
- ・進出企業による地元雇用者数：平成30年度／12名（4月～ワールドインテック、ナナイロ、ホップジャパン、Switch）

■目標の達成状況（平成31年度）

- ・移住者数：平成31年度以降／※30年度にて対応予定
- ・長期派遣者数：平成31年度以降／※30年度にて対応予定
- ・進出企業による地元雇用者数：平成31年度以降／※30年度にて対応予定

■その他の拠点利用

- ・地元企業への一時的貸出し・・・県内企業からの利用問い合わせが多くあるため、これら企業様への一時貸出を計画
- ・イベント、セミナー、催しの実施・・・誘致企業や新設職種・業種の方々に対してのワークショップやピッチイベントを実施
〈目的〉
地元雇用者の人材育成や社員教育の支援、新たなビジネス機会の創出、誘致企業、移住者と地域との接点づくり・交流

【今後の課題】地元雇用者の創出

拠点利用企業、拠点利用者獲得のための施設の魅力づくり

≪課題に対する取組み1≫

拠点や入居企業の具体的な取り組みや実績等を、WEB上（HP更新やSNS等）を中心に継続的に情報発信していくことで、実績の伴った拠点として、存在と魅力を対外的に発信。

≪課題に対する取組み2≫

拠点の利用満足度向上（コンテンツ、サービス、就労環境、移住条件の改善・充実化等）による、拠点の魅力向上。

本事業に関する問合せ先

～平成29年度

株式会社ジェイアール東日本企画（田村市）

部署名	ソーシャルビジネス開発局 田村サテライトオフィス
担当者名	與田 雅晴（よでん まさはる）
電話番号	090-3340-9267
電子メール	yoden.masaharu@jeki.co.jp

平成30年度～

一般社団法人Switch（田村市）

部署名	代表理事
担当者名	久保田 健一（くぼた けんいち）
電話番号	090-4479-7158
電子メール	kubota@switch-terrace.com

平成29年度 ふるさとテレワーク推進事業
 ものづくり企業を応援する“太田CSVセンター”整備事業
 リコージャパン(株)／群馬県太田市

<p>コンソーシアム名</p>	<p>太田市ソリューションテレワーク推進事業コンソーシアム</p>				
<p>コンソーシアム 参加機関名 (下線は代表機関)</p>	<p>リコージャパン(株)、太田市、ミネルヴァ・コンサルティング(株)、(株) DankSoft、太田プラスチック工業会、太田機械金属工業協同組合、国立大学法人群馬大学、ento</p>				
<p>地方移動者数 (平成29年度)</p>	<p>従業員：3名</p>	<p>個人：1名</p>	<p>地元ワーカー数 (平成29年度)</p>	<p>従業員：2名</p>	<p>個人：2名</p>
<p>実施地域</p>	<p>群馬県太田市</p>				
<p>事業概要</p>	<p>【目的】 都市部との人と仕事のコワーキングによる太田の更なる活性化と太田の課題解決を一過性で無く、継続的に図ると共に、(遠隔)検査・(耐久)試験・(工程)診断業務や環境、健康マーケティング等テレワークの新しい分野を創出する。</p> <p>【整備概要】 太田市の既存施設を改修し、最新のテレワーク、ICT設備・機器と快適な働く環境に整備し、サテライトオフィス及びコワーキングスペースとして使用する。</p> <p>【活用方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①都市部企業の機能と人を太田に移動し、都市部の本社あるいは開発拠点と連携し、テレワークで仕事を行う。 ②子育て、介護等の理由で太田に移動したい都市部従業員や個人に移動後、都市部業務を提供し、テレワークで仕事を行う。 ③都市部や太田の仕事を太田及び交流先の個人事業主や起業家が首都圏、他地域施設と連携し、テレワークで仕事を行う。 ④都市部企業がテレワークで働きたい女性を採用し、都市部及び太田の仕事を行う。 ⑤都市部企業が太田企業と連携して地元に戻りたい人材や働きたい人材を採用・育成してITを駆使してものづくり支援を行う。 				

平成29年度 ふるさとテレワーク推進事業
ものづくり企業を応援する“太田CSVセンター”整備事業
リコージャパン(株)／群馬県太田市

①リコーG新規事業(環境エネルギー、健康分野)のマーケティング・企画(例1)

(株)リコー
ES事業センター

リコージャパン(株)



地方移動者3名

移動する都市部仕事: ※産学官連携 ※
環境エネルギー・健康ソリューションのマーケティング
・企画、検証・実証、研究開発
快適で生産性の高いサテライトオフィスの検証
(株)リコーES事業センターのサテライト機能

②③リコーフューチャーハウス ROLE会員からの業務委託、起業支援及び交流(例1, 2, 3)

(株)リコー
RFH/
ROLE(リコーオフィス
&ラウンジ海老名)



個人1名

移動する都市部仕事:
都市部(海老名周辺)の事業家、起業家の業務
都市部(海老名周辺)の起業家、事業家と
太田周辺の起業家、個人事業主との仕事と人の交流

太田市

太田CSVセンター
(サテライト&コワーキング)



テレワーク推進事業

マーケティング事業

インキュベーション事業

ものづくり支援事業

雇用テレワーク
普及セミナー開催

テレワーカー
養成講座開催

産業支援センター
入居協力企業

(株)ダンクソフト

群馬大学

太田市

④都市部企業が、太田周辺のテレワークで働きたい女性を採用し、仕事を行う。(例4)

(株)ダンクソフト

ento

ミネルヴァ
コンサルティング(株)

地方移動者1名、個人1名

移動する都市部仕事:
都市部企業、個人のWebデザイン、コンテンツ作成、
Webライティング、HP作成
太田周辺企業の人事・給与・経理・総務

⑤都市部企業と太田周辺企業が連携し、地元に戻りたい、働きたい人材を採用し、太田周辺企業のものづくり支援を行う。(例1, 4)

太田機械金属工業
協同組合
(社労士、税理士)

太田プラスチック
工業会

ミネルヴァ
コンサルティング(株)

リコージャパン(株)

地方移動者1名、個人1名

移動する都市部仕事:
生産改善支援サービス、人材育成
3Dプリンタ造形サービス
太田周辺企業の検査・試験・診断業務
// 生産・運搬業務
// CADオペレーション

整備した拠点について①

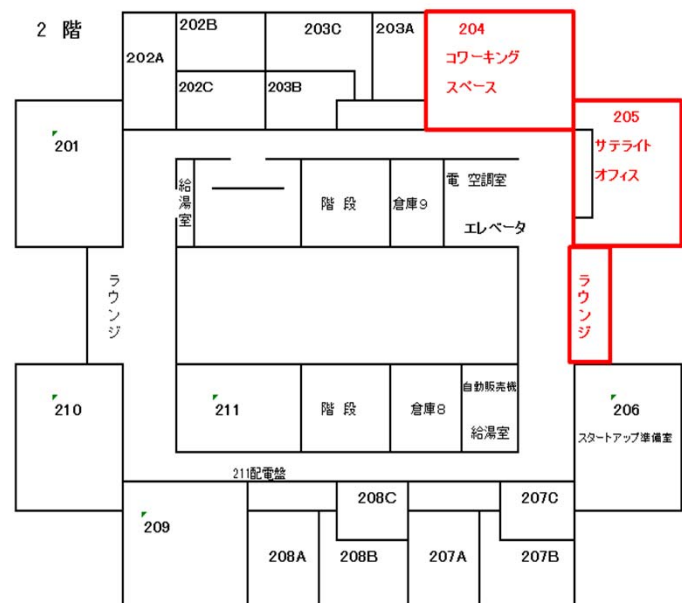
整備した拠点の概要

- 名称：「太田CSVセンター」
- 住所：群馬県太田市吉沢町1058-5（産業支援センター内）
- 利用対象者：地方移動者及び地元ワーカー
- 整備内容：太田市産業支援センターの2部屋（コワーキングスペースとサテライトオフィス）とラウンジ
約195m²を最新のテレワークICT機器設備及び快適な環境に整備
- 事業終了日：2018年2月28日
- 太田産業支援センターの外観



- 図面とイメージ 整備対象（2Fの居室2部屋（204、205）とラウンジ1カ所）

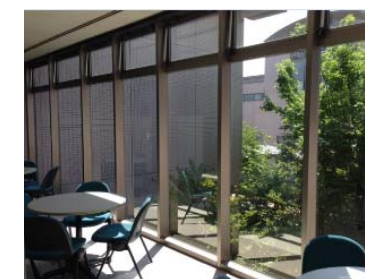
【コワーキングスペース】 204号室



【サテライトオフィス】 205号室



【ラウンジ】

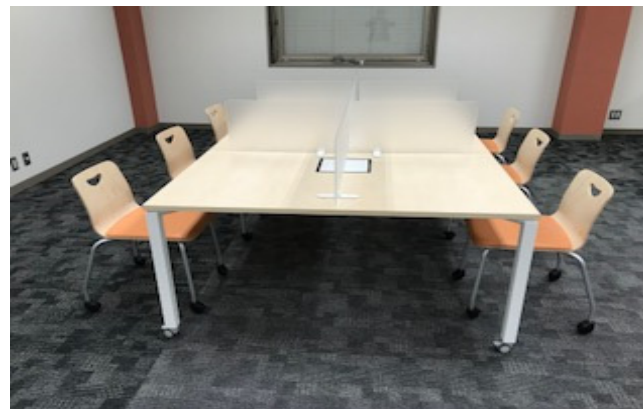
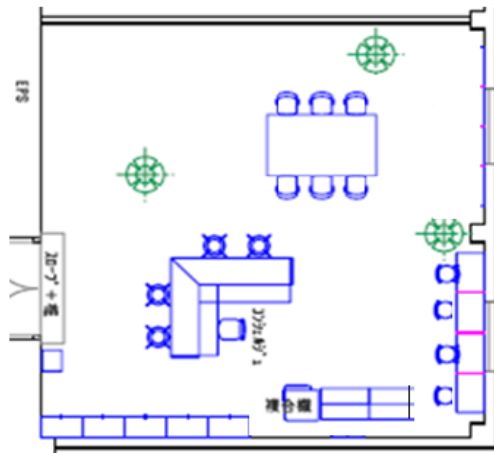


整備した拠点について②コワーキングスペース

整備した拠点の概要

- コワーキングスペース（204号）
- 利用対象者：地元ワーカー
- 収容人員：14名
- 実施予定業務：フリーランス、起業者、テレワーカー等が業務を行う。また来訪者との面会も行う。
使用者同士のコミュニケーションもとれ、ビジネスアイデア創出、簡易的なディスカッション場として利用する。

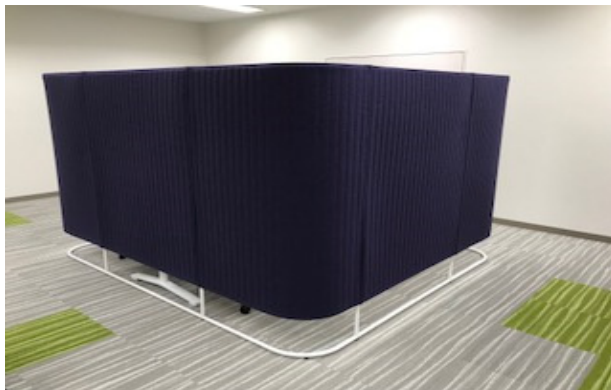
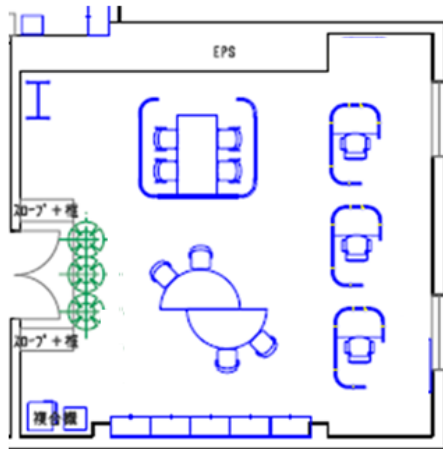
■ 図面とイメージ：



整備した拠点について③サテライトオフィス

整備した拠点の概要

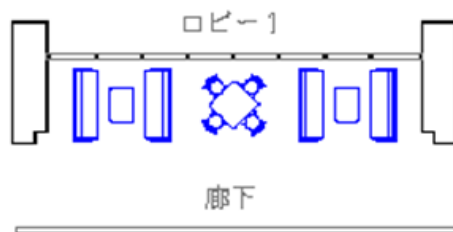
- サテライトオフィス（205号）
- 利用対象者：地方移動者
- 収容人員：11名
- 実施予定業務：企業の地方移動従業員のサテライトオフィスとして使用。企業間のコミュニケーションもとれ、ビジネスアイデア創出、簡易的なディスカッション場として利用。都市部にある本社/全国拠点/製造・企画部門との会議や打合せは、TV会議を活用し、新鮮な情報を迅速に展開する。ものづくり改善、3D活用相談会等も常時開催
- 図面とイメージ：



整備した拠点の概要

- ラウンジ
- 利用対象者：地方移動者、地元ワーカー
- 収容人員：12名
- 実施予定業務：204号室コワーキングスペース、205号室サテライトオフィススペース使用者に利用頂く。業務スペースが用途別で2部屋に分かれているため、共有ラウンジを利用することでコワーキングスペース利用者とサテライトオフィススペース利用者がコミュニケーションをとったり、ビジネスアイデアを出し合い、新規事業・ビジネスマッチングを創造する場として利用。また情報交換を行い、太田発展のためのアイデアをディスカッションする場とする。

■ 図面とイメージ：



整備完了前後の取り組み内容について①

告知活動

①テレワーク経営者セミナー

開催日時：平成30年2月15日（木）

開催場所：太田市ものづくりイノベーションセンター

開催内容：

- ・太田CSVセンターのご紹介
- ・ご講演

①「最新のテレワークで取り組む地方創生」

(株)ダンクソフト 代表取締役 星野晃一郎 様

②「『在宅』という働き方」

(株)ダンクソフト 間宮智将 様

参加者：48名

開催風景



テレワーク 経営者セミナー

～ものづくり企業におけるテレワーク～

開催日時 2/8 2/15 (木)
13:30～15:00

開催場所 太田CSVセンター
〒422-0104 太田市東町2-8

参加費 無料

申込先 太田CSVセンター 企画課
TEL 0270-47-1004 (直通)
受付時間 AM10:00～PM4:00
E-MAIL 0270-0900@city.ota.gunma.jp

主催 太田CSVセンター

協賛 太田CSVセンター

整備完了前後の取り組み内容について②

告知活動

②テレワーク 3D CAD体験教室

開催日時：平成30年3月17日（土）

開催場所：群馬大学 CAD/CAM室

開催内容：3D CAD 体験教室

参加対象：CADに興味のある初心者で太田市に
在住・在勤)

ご参加者：13名

講師：群馬大学 西田助教授

**テレワーク
3DCAD 体験教室**

3/17
13:30 ~ 16:30

テレワークに向けて、ご自身の CAD の体験教室を開催します。
パソコンで簡単な図面を描いたり、図面を読み取りしていただきます。

開催日時 3/17
開催場所 群馬大学 CAD/CAM室
本館南館内 26-1
参加費 無料
お申し込み 群馬大学キャンパス事務局
TEL: 0278-820222
FAX: 0278-55-2228
E-mail: campus@sigmail.com

群馬大学
西田助教授
群馬大学工学部
工学系
2011年4月～
群馬大学教員
一任付、専任
助教

会場：本館南館

整備完了前後の取り組み内容について③

告知活動及び運営活動の開始

③太田CSVセンター オープニングセレモニー

開催日時：平成30年3月19日（月）

開催場所：太田CSVセンター

開催内容：

- ・ご挨拶 清水太田市長
- ・テープカット

参加対象：太田ソリューションテレワーク推進事業コンソーシアム

④3月中旬より地方移動者による各種内覧会、説明会、体験会の実施

開催日時：平成30年3月1日～31日

開催場所：太田CSVセンター

平成30年度の活動計画

①テレワーカー育成の為に「プロライター養成講座」のスタート

開催予定時期：平成30年6月～12月

開催場所：太田CSVセンター

開催内容：（Webライティング）プロライター養成ベーシック講座、アドバンス講座、プロ講座

運営会社：(株) DankSoft

協力会社：産経新聞社、クリエイターズマッチ

②ものづくり支援の為に施策の各種スタート

開催予定時期：平成30年4月～平成31年3月

開催内容：太田CSVセンター、産業支援センター

開催内容：生産改善セミナー、3D CAD活用セミナー、品質管理セミナー

生産現場の自動化セミナー、ものづくり相談会、3Dプリンタによる造形サービス 他

本事業に関する問合せ先

群馬県太田市

部著名 産業環境部工業振興課

担当者名 山本 伸一

電話番号 0276-47-1834

電子メール

025550@mx.city.ota.gunma.jp

リコージャパン(株) 代表機関

部著名 新規事業本部社会インフラ事業部
社会イノベーション部地域創生推進 2 G

担当者名 内田 定一

電話番号 050-3534-2802 (直通)

電子メール suchida@jp.ricoh.com

廃校と地域資源を活用したICTクリエイター・テレワーカーらが集う「勝浦テレワークセンター」の創出事業

株式会社パクチャー（千葉県勝浦市）

コンソーシアム名	勝浦ふるさとテレワークコンソーシアム				
コンソーシアム参加機関名 (下線は代表機関)	株式会社パクチャー、勝浦市、株式会社トゲル				
地方移動者数	従業員：2	個人：2	地元ワーカー数	従業員：4	個人：2
事業概要	<p>人口が減少し過疎地域に指定された勝浦市の廃校(旧)清海小学校を本事業で改修・整備し「勝浦テレワークセンター」を開設。東京から電車で90分、海まで徒歩0分のロケーションと魅力的な地域資源(温泉・海の幸・地酒・釣り・ゴルフ場等)は、ワークライフ・バランスの向上とテレワーク勤務者の家族の移住につながり、地方からのGDP押し上げの一翼を担います。都市部と同様の仕事環境を整備するため、セキュアなネットワーク構築、作業空間の改修整備は、廃校に新しい「価値」を生み出し、地方へ人と仕事の流れを創出し、地元ワーカー等の創業支援の場へと変わります。行政と民間企業のコンソーシアムによりICTやテレワークを活用した継続的な事業を進め、近隣地域と一体となった新しい地方創生を目指します。</p>				

テレワーク協働拠点の整備

廃校となった小学校を活用して、都市部から「人・仕事」の流れを創出しテレワーカーの移住や長期派遣を目的とした協働拠点を整備する。勝浦市の豊富な地域資源を活用しワーク・ライフ・バランスの向上を実践する。

センター内は「集中と開放と混在」をテーマとし柔軟な働き方の実現と新しい化学反応が生まれる場を目指して改修整備を行っていく。

勝浦市を中心とした連携機関との協力体制により、活発なシェア協働空間を継続的に運営する事で地元ワーカーに向けてICTを活用した起業創業の聖地となるような長期的な地域活性拠点を目指す。

株式会社 パクチャー

- Web制作 / Webデザイン / 広告業
- コワーキング / シェアオフィス運営

千葉市本社業務の一部を地方に

株式会社 トゲル

- システム構築 / 営業支援システム
- コワーキングスペース / 会議室運営

東京本社 業務の一部を地方に

千葉大学 COC+

学生の地方への雇用創出などの取組みの実施
勝浦市は重点モデル地域として進める

地元ワーカーの進出

職場の創造で地元雇用の創出 創業支援から地元起業

地方移住者の創造

ワーク・ライフ・バランスの向上、地域資源の体験

★千葉県 商工労働部 企業立地課

企業誘致に関する助言、勝浦市への企業マッチング
地方創生推進交付金事業（広域連携事業）

勝浦市商工会

創業支援事業フォローアップ
起業 / 創業の経営支援 連携

市内金融機関

企業誘致サポート / 移住のフォロー
勝浦市との連携協定

ローカルハブ 事業協同地域

廃校の活用

人と仕事の流れ創出

テレワーククラウド

ふるさとテレワーク推進事業

創業 / 起業 / 移住

都市部にある本社との社内情報連携
◆ グループウェア構築 ◆ データ共有

Web 会議システム / 業務・勤怠管理
◆ 本社とのコミュニケーション ◆ 出退勤管理

セキュアな光回線ネットワークの構築
閉域ネットワークを経由でセキュアな環境

安全で高速な Wi-Fi 環境の整備
高速 Wi-Fi 環境整備、本社同様の環境づくり

廃校と地域資源を活用したICTクリエイター・テレワーカーらが集う「勝浦テレワークセンター」の創出事業 株式会社パクチー（千葉県勝浦市）

■整備した拠点の概要

- 名称：勝浦テレワークセンター
- 住所：千葉県勝浦市鷺原142-2
- 利用対象者：都市部のフリーランス、IT系クリエイター、起業家、スタートアップ、勝浦近郊の方
- 収容人数：1階コワーキングスペース 18名、2階シェアオフィス 14名
- 実施業務：ICTを活用したWEB開発、WEBデザイン、プログラミング、システム開発等



■整備完了後の取組内容の概要

- 1階コワーキングスペース
都市部に本社がある3社がテレワーク拠点としてICTを活用したweb制作業務や打合せスペースとしてコワーキングスペースを活用、都市部のフリーランサーのドロップイン利用(都度利用)にも対応し地方でのテレワークの体験を行い、移住定住や地方での仕事を実際に行っていただく。
- 2階シェアオフィス
都市部に本社がある企業の支店登記場所として提供、顔認証の入退館システムを導入しているためセキュアな環境が守られブースタイプの個室になっていることから、集中した作業や会社備品などの保管にも対応している。
都市部からのスタートアップの拠点として低価格な賃料にて提供を行う。

(参考①) 整備した拠点について

勝浦テレワークセンター

廃校となった（旧）勝浦市立清海小学校を活用し、都市部から地方への人や仕事の流れを創出することを目的としています。

柔軟な働き方の実現に向けた新しい定義「集中と開放と混在」という概念にて個別ブースとなったシェアオフィスにて限られた時間での業務効率を上げ自由な座席の空間では開放的な職場環境で作業を行うことができます。混在はテレワークで疎外感を感じず、多様な人間が集う場所を提供します。これから広がる新しいテレワーク空間にご期待下さい！



職員室部分をコワーキングスペースに

整備箇所



コワーキングスペース



廃校となった小学校を利活用



テレビ会議商談室

シェアオフィス



勝浦テレワークセンターの目の前はビーチ

(参考②) 整備完了後の取組内容について

運営計画

- ・勝浦テレワークセンターではコンソーシアム内に2社のコワーキングスペース運営企業があり空間運営に関しての実績があるため、IT系企業へのアプローチを行い、都市部から地方へのテレワークを推進する。システムエンジニア等による開発合宿などで勝浦テレワークセンターを体験していただき、その後の新しい拠点として活用を促す。
- ・2階のシェアオフィス部分は既に活用する企業の入居が決定しているが、その他に10教室の未活用教室があるため、継続して都心部の企業へ向けて継続した利用案内を行っていく。
- ・早朝にテレワークセンター目の前(徒歩1分)の鵜原海岸でサーフィンを楽しみ、10時からテレワークセンター内で勤務を行ったり、テレビ会議システムにて本社同様の会議に参加できるなど、ワーク・ライフ・バランスの向上を行いながら、新しい働き方改革の実践ができる場となる。

【平成29年度 目標数】

地方従業員移住者 4人、個人移住者5人、長期従業員派遣者等4人、長期個人派遣1人

進出企業による地元雇用4人

地元起業家2人、施設利用者:100人

(コワーキングスペース利用者 月間100人 ※ 開所から1月間の運用)

【平成30年度 目標数】

地方従業員移住者 7人、個人移住者7人、長期従業員派遣者等5人、長期個人派遣3人

進出企業による地元雇用10人

地元起業家15人、施設利用者:1,200人

(コワーキングスペース利用者 月間100人)

本事業に関する問合せ先

株式会社 パクチャー

部署名	テレワーク事業部
担当者名	福岡 / 坂本
電話番号	043-306-8456
電子メール	info@paxi.asia

勝浦市

部署名	企画課 企業立地推進班
担当者名	菰田(こもだ) / 植村
電話番号	0470-73-6687
電子メール	kigyou-k@city-katsuura.jp